

Title	西川俊作教授 略歴および主要業績目録 (西川俊作教授退任記念号)
Sub Title	
Author	
Publisher	
Publication year	1998
Jtitle	三田商学研究 (Mita business review). Vol.41, No.4 (1998. 10)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234698-19981000-00685952

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

西川俊作教授

略歴および主要業績目録

I 略 歴

生年月日：1932（昭和7）年6月18日生

現住所：千葉県市川市市川3丁目40番21号

1. 学 歴 等

- 1955（昭和30）年3月 慶應義塾大学経済学部卒業
- 1957（昭和32）年3月 慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了
- 1961（昭和36）年3月 慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程修了
- 1970（昭和45）年9月 経済学博士（慶應義塾大学）

2. 職 歴 等

- 1959（昭和34）年4月 慶應義塾大学商学部副手
- 1961（昭和36）年4月 慶應義塾大学商学部助手
- 1964（昭和39）年4月 慶應義塾大学商学部助教授
- 1972（昭和47）年4月 慶應義塾大学商学部教授
- 1988（昭和63）年10月—1990（平成2）年9月 慶應義塾福澤研究センター副所長（兼任）
- 1990（平成2）年10月—1996（平成8）年9月 慶應義塾福澤研究センター所長（兼任）
- 1998（平成10）年4月 慶應義塾大学名誉教授

3. 主な塾外活動

- 1967（昭和42）年—1970（昭和55）年 経済企画庁経済研究所主任研究官
- 1970（昭和45）年—1971（昭和56）年 経済企画庁経済研究所客員研究員
- 1974（昭和49）年—1976（昭和51）年 労働省・中央職業訓練審議会委員
- 1975（昭和50）年—1978（昭和53）年 理論計量経済学会（現在 日本経済学会）常任理事
- 1981（昭和56）年—1986（昭和61）年 理論計量経済学会（現在 日本経済学会）理事
- 1981（昭和56）年—1985（昭和60）年 総務庁・雇用統計研究会委員
- 1982（昭和57）年—1990（昭和65）年 労働省・失業対策事業賃金審議会委員
- 1982（昭和57）年—1986（昭和61）年 公認会計士試験第2次試験試験委員
- 1982（昭和57）年—1992（平成4）年 助統計研究会理事
- 1984（昭和59）年—1987（昭和62）年 『季刊 理論経済学』編集委員
- 1992（平成4）年— 助統計研究会常務理事
- 1986（昭和61）年—1995（平成7）年 労働省・中央最低賃金審議会委員，会長

- 1987（昭和62）年—1996（平成8）年 労働省・雇用審議会委員
 1990（平成2）年—1994（平成6）年 日本銀行金融研究所顧問
 1994（平成6）年—1996（平成8）年 文部省・教科書用検定調査審議会委員
 1996（平成8）年— 労働省・中央職業安定審議会会長

Ⅱ 主要業績

1. 著訳書

- L. ヨハンセン『経済成長の多部門分析』（訳）ダイヤモンド社，1962年。
 『地域間労働移動と労働市場』有斐閣，1966年。
 ハウタッカー／ティラー『合衆国の消費需要』（辻村江太郎・黒田昌裕氏と共訳）勁草書房，1968年。
 『リーディングス・日本経済論(3)労働市場』（編）日本経済新聞社，1970年。
 『計量経済学のすすめ』毎日新聞社，1970年。
 R. ドーフマン『価格と市場』（新飯田宏氏と共訳）東洋経済新報社，1972年。
 『経済学』東洋経済新報社，1974年（第2版1979，第3版1988，第4版1994）。
 『経済分析と経済政策』日本経済新聞社，1975年。
 R. G. ウィルキンソン『経済発展の経済学』（斎藤修・安元稔氏と共訳）筑摩書房，1975年（リプロポート再版，1985年）。
 『数量経済史入門』（新保博・速水融氏と共著）日本評論社，1975年。
 S. クズネツ『諸国民の経済成長』（戸田泰氏と共訳）ダイヤモンド社，1977年。
 『江戸時代のポリティカル・エコノミー』日本評論社，1979年。
Labor Market in Japan, (editor), Translated by R. Mouer, University of Tokyo Press, 1980.
 『日本経済の成長史』東洋経済新報社，1985年。
 『福沢諭吉と3人の後進たち』日本評論社，1985年。
 『日本経済史：産業化の時代』上・下（編著）岩波書店，1990年。
 『経済学とファイナンス』（編著）東洋経済新報社，1995年。
 『日本経済の200年』（編著）日本評論社，1996年。
 『福沢諭吉の横顔』慶應義塾大学出版会，1998年。

2. 主要論文

- 「産業別・規模別分配率の分析」『三田学会雑誌』52巻5号，1959年。
 「産業別生産函数とその規模係数」『三田商学研究』2巻4，5号，1959年。
 「産業別生産函数とその規模係数——若干の計測結果と仮説の再検討」『季刊 理論経済学』XI巻1・2号，1960年。
 「計量経済学小史」『三田商学研究』2巻6号，1960年。
 「綿紡績業の賃金変動と賃金格差」『三田商学研究』3巻5号，1960年。
 「応募方程式による労働市場の分析」（小尾恵一郎氏と共著）『経済学年報』4巻，1961年。
 「労働の移動率と賃金水準」『三田商学研究』5巻1号，1962年。
 「縣別の労働流入と賃金・所得」『三田学会雑誌』55巻5号，1962年。
 「東京への労働力の流入について」『三田商学研究』（堀国雄氏と共著）5巻4号，1962年。
 「地域間労働移動について」『経済研究』13巻1号，1962年。
 「地域間労働移動の分析と予測」『三田商学研究』6巻5号，1963年。
 「技術変化と生産構造——セメント工業に関する経験的研究」『季刊 理論経済学』XIII巻3号，1963年。
 「最近における工業労働者の労働異動と賃金格差」『季刊 経済分析』11巻，1963年。

- 「タイト・マネー期における銀行流動性と銀行間の収益格差」(伊藤久雄氏と共著)『三田商学研究』6巻3号, 1964年.
- 「化繊企業の競争と企業成長」『三田商学研究』6巻4号, 1964年.
- 「岡谷製糸女工労働市場とその変化」『三田商学研究』7巻4号, 1964年.
- 「最小自乗回帰の計算プログラム」(黒田昌裕氏と共著)『三田商学研究』8巻2号, 1965年.
- 「農業限界生産力の上昇と非農業賃金への波及」(鳥居泰彦氏と共著)『日本労働協会雑誌』105号(12月), 1967年.
- 「工業化過程における資源配分と物価変動」(辻村江太郎氏と共著)『三田商学研究』10巻1, 2号, 1967年.
- 「最小自乗回帰計算のサブ・プログラム」『三田商学研究』11巻1号, 1968年.
- 「金利の相互関係とその変化」(一色晃造氏と共著)『三田商学研究』11巻3号, 1968年.
- 「国内純移動人口の性別年齢階層別推計」『三田学会雑誌』寺尾琢磨教授退任記念号, 62巻8号, 1969年.
- 「然るに統計の実験に於ては——福沢先生の統計的方法断章」『三色旗』260号(11月), 1969年.
- 「労働供給と賃金決定」山田勇ほか編『日本経済の構造変動と予測』, 春秋社, 1969年.
- 「投入・産出分布と技術変化, 製品構成」新飯田宏・小野旭編『日本の産業組織』, 岩波書店, 1969年.
- 「国内純移動人口の検討」『三田学会雑誌』63巻3号, 1970年.
- 「銀行業における競争とその規制」『季刊 経営問題』春季, 1970年.
- 「失対事業の経済学的考察」『季刊 労働法』春季, 1971年.
- 「防衛支出の「政治経済学」」『季刊 現代経済』2巻, 1971年.
- 「国内人口移動: 1920-65年」『三田商学研究』14巻3号, 1971年.
- 「本籍・現住地表による国内人口移動の分析」『三田商学研究』14巻5号, 1971年.
- 「北海道への人口移動: 1880-1970年」『経済研究』23巻4号, 1972年(のち『数量経済史論集1 日本経済の発展』所収).
- 「銀行における規模の経済性」貝塚啓明編『リーディングス・日本経済論(5)金融政策』日本経済新聞社, 1972年.
- 「管理価格インフレーションと寡占」『季刊 現代経済』9巻, 1973年.
- 「銀行: 競争とその規制」熊谷尚夫編『日本の産業組織』中央公論社, 1973年.
- 「女子労働力率の変動」(有明民子氏と共著)『日本労働協会雑誌』1974年.
- 「雇用保険: 失保研報告と雇用保険法案」『社会保障研究』10巻1号, 1974年.
- “Employment and Unemployment, 1970-75,” joint paper with Haruo Shimada, *Keio Business Review*, no.13, 1974.
- 「労働市場の機構と賃金決定」(島田晴雄氏と共著)『季刊 現代経済』15巻, 1975年.
- 「19世紀中葉防長両国の農業生産関数」(穂本洋哉氏と共著)『経済研究』26巻4号, 1975年.
- 「1840年代三田尻宰判の経済計算」(石部祥子氏と共著)『三田学会雑誌』68巻9, 10号, 1975年.
- 「《経済表》の投入・産出表々示」『三田商学研究』18巻4号, 1975年.
- 「銀行員——その平均像」(篠塚英子氏と共著)『季刊 経営問題』秋季, 1975年.
- 「日本の産業モデル: 展望」上野裕也・村上泰亮編『日本経済の計量分析』岩波書店, 1975年.
- 「1840年代防長両国における非農生産物3品の産出高と投入係数」『三田商学研究』19巻2号, 1976年.
- 「「長期経済統計」の計量経済学 (Review)」『季刊 理論経済学』XXVII巻2号, 1976年.
- 「爰に日本国内の一小区に於て——福沢先生の歴史的方法断章」『三色旗』338号(5月), 1976年.
- 「防長一円《経済表》序説」(穂本洋哉氏と共著)社会経済史学会編『新しい江戸時代像を求めて』東洋経済新報社, 1977年.
- 「学習塾の経済学」『諸君』1977年2月号.
- 「数量経済史——その一例」『統計』1977年3月号.
- “Productivity, subsistence, and By-Employment in the Mid-Nineteenth Century Choshu,” *Exploration in*

Economic History, vol.15, no.1, 1978.

- 「長州・山口県における産業発展」『数量経済史論集 2 近代移行期の日本経済』日本経済新聞社, 1979年.
- 「プロ野球の労働経済学」『労働時報』1979年 3月.
- 「女子就業を決めるもの」(樋口美雄氏と共著)『日本労働協会雑誌』246号, 1979年.
- 「藩札論再考」(谷村賢治氏と共著)『三田学会雑誌』73巻 3号, 1980年.
- 「防衛支出は拡大すべきか」『東洋経済新報』臨時増刊55号, 1980年.
- 「西南戦後インフレ期における慶應義塾と福沢諭吉」『三田商学研究』24巻 4号, 1981年.
- 「18-19世紀における長州藩の宰判別人口増加」『三田商学研究』24巻 1号, 1981年.
- “Protoindustrialization in the Domain of Choshu in the Eighteenth and Nineteenth Century,” *Keio Economic Studies*, vol.XVIII, no.2, 1981.
- 「移行期の長州における穀物消費と人民の常食」『三田商学研究』25巻 4号, 1982年.
- 「吉理吉理国の経済政策 (Review)」『経済セミナー』411号, 1982年.
- 「藩札残高と草高の関係」『経済発展と金融』所収, 創文社, 1982年.
- 「忘れられたジャパノロジスト」『エコノミスト』1982年 1月25日号.
- 「18, 19世紀における長州のプロト工業化」『数量経済史論集 3 プロト工業化期の経済と社会』日本経済新聞社, 1983年.
- 「G. ドロップーズの履歴と業績」『三田商学研究』26巻 1号, 1983年.
- 「問い直される福沢の思想」『エコノミスト』1984年12月25日号.
- 「藩専売制の波及について」(石部祥子氏と共著)『経済研究』36巻 3号, 1985年.
- “The Economic History of the Restoration Period,” joint paper with Osamu Saito, in Nagai Michio and M.Urrutia, eds., *Restoration and Revolution*, The United Nations University, 1985.
- 「大いなる遺産」(斎藤修氏と共著)『明治維新』, 国連大学 [東大出版会], 1986年. [上掲論文の邦語版]
- 「《経済表》再考」『三田商学研究』29巻 1号, 1986年.
- “Grain Consumption: the Case of Choshu,” in Jansen, M. B., and G. Rozman, eds., *Japan in Transition from Tokugawa to Meiji*, Princeton University Press, N. J., 1986.
- 「福沢百助・黒沢庄右衛門と奥平昌高」『国民経済雑誌』156巻 3号, 1987年.
- 「慶応3年アメリカから福沢諭吉が購入してきた図書をめぐって」『福沢諭吉年鑑』13, 1987年.
- “The Economy of Choshu on the Eve of Industrialization,” *Economic Studies Quarterly*, vol.38, no.4, 1987.
- “The Historical Legacy in “Modern” Japan: Competition, Paper Currency, and Benevolence,” *Japan Foundation Newsletter*, 1988.
- 「大学部百年」(のち福沢記念選書42)『三田評論』1989年 4月号.
- 「諸藩の産業と経済政策」(天野雅敏氏と共著)『日本経済史: 近代成長の胎動』岩波書店, 1989年.
- 「窮理学研究所・適塾」『適塾』23号, 1990年.
- 「理財科の30年: 1890-1920年」『三田学会雑誌』83巻 3号, 1990年.
- “Fukuzawa Yukichi (1835-1901) (Later in *Thinkers on Education*, vol.2, UNESCO),” *Prospects*, XXI-2, 1991.
- 「江戸〔時代〕からの経済発展」『日本経済新聞』1991年 4月 5日~11日.
- 「万国政表——原表と翻訳」『福沢手帖』69号, 1991年.
- 「統計学——福沢諭吉から横山雅男へ」『近代日本研究』8巻, 1991年.
- 「気の知れぬ国ロシア」『三田評論』1992年 4月号.
- 「森田命祺の直話と福沢諭吉」『三田評論』1993年 4月号.
- 「近江商人と福沢諭吉」『三田評論』1994年 8・9月号.
- 「米軍伝単——自由主義のすゝめ」『福沢手帖』87号, 1995年.
- 「塚本定次——転換期の近江商人」(山根秋乃氏と共著)『近代日本研究』12巻, 1995年.

- “Fukuzawa Yukichi” in *International Encyclopedia of Business and Management*, vol.2, Routledge, 1996.
- 「QE H25年私紀」『現代経済学の潮流1997』東洋経済新報社，1997年．
- 「演説館と先生の演説」『三田評論』1997年6月号．
- 「統計利用事始め」『ECO-FORUM』16巻2・3号，1997年．